

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2019/4/1~2019/7/31)

令和元年11月18日
令和元年度第2回
医薬品等安全対策部会
資料 4-1

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	CDC MMWR. 68(2019)413-415	米国におけるA型肝炎の発症率は、1996年から2011年の間に約95%減少した。しかし2016年から2018年にかけて、米国疾病予防管理センター(CDC)は米国の州及び領土からA型肝炎ウイルス(HAV)感染に関する約15000件の報告を受け、最近の感染症例増加を示した。2017年以降、報告の多くは、薬物使用者やホームレスの間において多発するアウトブレイクに関連していた。さらに、HAV感染の増加は、男性と性交渉を持つ男性(MSM)においても確認された。また件数は少ないが、HAVに汚染された輸入食物の摂取と関連した発生も報告された。
2	A型肝炎	ProMED-mail 20181209.6192447	2018年11月現在、米国アーカンソー州においてA型肝炎症例200例超が報告されている。症例の大半はGreene郡、Clay郡、Craighead郡及びLawrence郡に集中している。A型肝炎の拡大は、以前は不適切な手洗い及び糞便による伝播と関連していたが、研究により、長期に及ぶホームレス生活、男性間性交渉、投獄経験、注射薬使用に関連した症例の増加が確認されている。米国ルイジアナ州における2018年のA型肝炎症例の4分の1以上はMorehouse Parish郡において発生している。同州は2018年、当該疾患が全体的に増加した。全国的な当該疾患の最近の増加は、ホームレス、注射薬又は非注射薬使用者及びこれらの人々と接触した人々において頻繁に確認されている。
3	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	CDC MMWR. 68(2019)413	B型肝炎ワクチン接種及び有効な治療並びにC型肝炎の治療が利用可能であるにもかかわらず、2016年には米国において推定86万2千人又は240万人が、それぞれB型肝炎又はC型肝炎に罹患している。A型肝炎はワクチン接種により予防可能であるが、2016年以降、複数の州において多数の症例及びヒトからヒトへの蔓延を伴うアウトブレイクが起こっている。C型肝炎の新規症例も増加している。2010年から2016年にかけて、主に若年成人において新規症例が約3.5倍増加した。最近のウイルス性肝炎感染の増加は、多くが注射薬物使用の急増によるものである。
4	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20181203.6178495	2017年8月1日以降、米国ケンタッキー州公衆衛生局(DPH)は2000例を超えるHAVIによる急性A型肝炎症例を確認した。2018年11月24日現在の当該アウトブレイクによる総症例数は2865例で、入院1476例及び死亡18例を含む。2018年に米国ウエストバージニア州において始まったA型肝炎のアウトブレイクに関して、2018年11月30日現在、保健当局は当該アウトブレイクによる症例数の総数を1963例としている。リスク因子として、注射薬又は非注射薬使用者、ホームレス及びMSMが含まれた。B型肝炎ウイルス(HBV)又はC型肝炎ウイルス(HCV)への同時感染症例も確認された。
5	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20181211.6204048	2017年8月1日以降、米国DPHは2000例を超えるHAVIによる急性A型肝炎症例を確認した。2018年12月1日現在の当該アウトブレイクによる総症例数は3021例で、入院1544例及び死亡19例を含む。2018年3月に米国ウエストバージニア州において始まったA型肝炎のアウトブレイクに関して、2018年12月7日現在、保健当局は当該アウトブレイクによる症例数の総数を2018例としている。リスク因子として、HBV又はHCVへの同時感染、違法薬物使用者及びホームレスが含まれた。
6	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20181229.6226575	2017年8月1日以降、米国DPHは2000例を超えるHAVIによる急性A型肝炎症例を確認した。2018年12月15日現在の当該アウトブレイクによる総症例数は3265例で、入院1625例及び死亡21例を含む。2018年3月に米国ウエストバージニア州において始まったA型肝炎のアウトブレイクに関して、2018年12月21日現在、保健当局は当該アウトブレイクによる症例数の総数を2137例としている。リスク因子として、HBV又はHCVへの同時感染、違法薬物使用者及びホームレスが含まれた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
7	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20190117.6263392	2018年3月に米国ウエストバージニア州において始まったA型肝炎のアウトブレイクに関して、2019年1月11日現在、保健当局は当該アウトブレイクによる症例数の総数を2214例としている。リスク因子として、HBV又はHCVへの同時感染、違法薬物使用者及びホームレスが含まれた。
8	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20190126.6279142	2018年3月に米国ウエストバージニア州において始まったA型肝炎のアウトブレイクに関して、2019年1月25日現在、保健当局は当該アウトブレイクによる症例数の総数を2275例としている。リスク因子として、HBV又はHCVへの同時感染、違法薬物使用者及びホームレスが含まれた。
9	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20190219.6325591	2018年3月に米国ウエストバージニア州において始まったA型肝炎のアウトブレイクに関して、2019年2月15日現在、保健当局は当該アウトブレイクによる症例数の総数を2347例としている。リスク因子として、HBV又はHCVへの同時感染及び違法薬物使用者が含まれた。
10	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20190306.6352746	2018年3月に米国ウエストバージニア州において始まったA型肝炎のアウトブレイクに関して、2019年3月1日現在、保健当局は当該アウトブレイクによる症例数の総数を2386例としている。リスク因子として、HBV又はHCVへの同時感染及び違法薬物使用者が含まれた。
11	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20190325.6386607	2018年3月に米国ウエストバージニア州において始まったA型肝炎のアウトブレイクに関して、2019年3月22日現在、保健当局は当該アウトブレイクによる症例数の総数を2455例としている。リスク因子として、HBV又はHCVへの同時感染及び違法薬物使用者が含まれた。
12	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20190404.6404987	2018年3月に米国ウエストバージニア州において始まったA型肝炎のアウトブレイクに関して、2019年3月29日現在、保健当局は当該アウトブレイクによる症例数の総数を2469例としている。リスク因子として、HBV又はHCVへの同時感染及び違法薬物使用者が含まれた。
13	E型肝炎	GOV.UK. https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/778614/Emerging_infections_summary_January_2019.pdf	カナダにおいて、新型のラットE型肝炎ウイルス(HEV)株による急性肝炎の3例目のヒト感染例が報告された。HEVに関する通常のPCRは陰性で、同感染症を診断するため、広範囲反応性PCRを用いてHEV変異株を検出した。系統発生解析により、当該ウイルスが、最近香港において報告された、臓器移植患者が感染したラットHEVとは遺伝的に異なることが示された。
14	E型肝炎	J Infect Dis. (2019)	カナダにおいて、新型のラットHEV株による急性肝炎の3例目のヒト感染例が報告された。HEVに関する通常のPCRは陰性で、同感染症を診断するため、広範囲反応性PCRを用いてHEV変異株を検出した。系統発生解析により、当該ウイルスが、最近香港において報告された、臓器移植患者が感染したラットHEVとは遺伝的に異なることが示された。
15	E型肝炎	PEI ホームページ. https://www.pei.de/EN/information/journalists-press/press-releases/2019/11-safety-for-blood-donations-further-improved-pei-requires-hepatitis-e-testing-for-blood-donors.html?sessionId=CEA166D3E53DB17042091CE94C29E321.1_cid329	ドイツのポール＝エールリッヒ研究所は、献血者にE型肝炎検査が必要とし、その要件を定めた。製品により、2020年1月1日又は2021年1月1日から検査が義務化される。

ID	感染症(PT)	出典	概要
16	E型肝炎	Transfusion. 598(2019)1024-1034	13201例のドナー血液に関連する3384例のレシピエントにおいて抗体検査を実施した。輸血以前に抗HEV IgG抗体を保有していた1036例のうち、19例において「再曝露」(IgG抗体量が少なくとも4倍以上に増加)が確認された。同様に、輸血前はIgG抗体を有していなかった2348例の内、40例でセロコンバージョンが確認された。なお、これら59例は257件の献血に由来しており、うち一検体において5.5 logIU/mLのHEVが確認された。当該ドナー由来の赤血球製剤が投与された患者ではIgG量が8倍以上に増加したことから、間接的ながらも、輸血を介したHEV感染が米国で初めて確認された。
17	E型肝炎	日本輸血細胞治療学会誌. 64(2018)655-659	日本における輸血を介したE型肝炎感染症例が報告された。患者は67歳男性で、201X-1年8月にホジキンリンパ腫を発症した。201X年1月から5月のゲムシタビン、デキサメタゾン及びシスプラチン(GDP)療法の終了後間もなく、男性は肝障害(AST 466 IU/L、ALT 337 IU/L、LDH 370 IU/L、 γ -GTP 678 IU/L)と診断された。輸血歴として、201X年2月から5月の間に、6単位の赤血球濃厚液及び80単位の血小板濃厚液の輸血を受けた。日本赤十字社の調査によると、HEV RNAは11例中1例の献血者の保管検体から検出された。オープンリーディングフレーム(ORF)1、ORF2及びORF1のプロリンリッチ領域(V領域)中の全ヌクレオチド配列は、患者株及び献血者株との間で一致し、HEVが輸血に由来することを確認した。
18	E型肝炎	臨床血液 59(2018) 1914-1923	日本における輸血によるE型肝炎感染に関する報告である。E型肝炎症例386例のうち、372例が海外渡航歴のない国内感染例であった。372例のうち、血液疾患を背景にE型肝炎を発症した患者は5例のみであった。日本赤十字社によると、輸血用血液製剤からHEVに感染した症例が2002年から2017年までに27例把握されている。21例ではHEV感染は一過性で、肝炎は治癒した。5例は、慢性E型肝炎を発症した。1例は劇症肝炎を発症し死亡した。同症例は81歳女性であり、多発性骨髄腫に対し、輸血の5カ月前から抗がん剤が投与されていた。高齢であり、5カ月間の抗がん剤の投与により肝予備能が低下していたことに加え、E型肝炎に罹患したことが劇症肝炎の発症に繋がりがり、死亡は複合的な要因によるものと推察されている。
19	インフルエンザ	CDC MMWR. 67(2018)1169-1173	2017年9月14~17日に米国メリーランド州で開催された農業フェアに出品された107頭のブタのうち5頭においてインフルエンザA(H3N2)ウイルス(IVA(H3N2))が確認された。ブタの出品者も罹患していることが報告された。メリーランド州の他の農業フェア2件(9月13~17日及び9月15~23日)についても調査したところ、これらのフェアでブタに接触した40例のインフルエンザA(H3N2)変異型ウイルス(IVA(H3N2)v)への感染が確認された。うち、24例が5歳未満の小児であった。
20	インフルエンザ	CDC MMWR. 67(2018)1178-1185	2018年5月20日~10月13日、米国で新型インフルエンザAウイルス(IVA)のヒト感染14例が報告された。1例はIVA(H3N2)v、13例はインフルエンザA(H1N2)変異型ウイルス(IVA(H1N2)v)と関連していた。IVA(H3N2)v感染は、発症の前週に農産物品評会でのブタとの接触が報告されたインディアナ州の患者1例であった。
21	インフルエンザ	J Cent South Univ. 43(2018)1266-1271	中国においてブタ伝播性重症インフルエンザ関連肺炎の症例が報告された。症例は、飼育ブタ育種に従事する62歳男性で、発熱と筋肉痛が5日間、呼吸困難が3日間持続したため入院した。発病1週間前、患者はブタとの濃厚接触があった。胸部CTスキャンで両肺にびまん性浸潤が認められ、金コロイド法によるインフルエンザBウイルス(IBV)抗原検出は繰り返し陽性であり、これらの所見はIBV感染を裏付けた。接触したブタには食欲不振、体重減少、咳嗽及び気性低下が認められ、IBV抗原検査は陽性であった。患者にはIBV感染者に対する曝露歴はなかった。IBVが飛沫又は濃厚接触により、飼育ブタから患者に伝播した可能性が考えられた。
22	エボラ出血熱	ProMED-mail 20190301.6343087	コンゴにおけるエボラ出血熱のアウトブレイクでは、2018年8月以降約900例が感染している。Katwa及びButembolにおける確定症例数は307例超に増加中であり、アウトブレイクの経過中で現在最大の爆発的発生となっている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
23	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20181025.6111462	深刻な干ばつにより、アフガニスタン各地においてダニ媒介熱に感染した家畜の移動を強いられているため、同国では致死的なダニ媒介熱の症例が急激に増加している。2018年9月には、クリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告症例が90例認められ、現在までに感染したヒトの約8分の1が死亡した。
24	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20190220.6326061	2019年2月17日早朝、パキスタンのJinnah Postgraduate Medical Centre (JPMC)において75歳の男性がCCHFの合併症で死亡した。当該症例は、Orangi Townの35歳の女性がコンゴウイルスによりJPMCの隔離病棟で死亡した2019年2月12日から1週間以内の、同都市におけるCCHFによる2例目の死亡症例である。JPMC Executive Directorは、当該患者がウシを取り扱っていた経験があり、JPMCに搬送された際に重篤な状態であったと述べた。Karachi Metropolitan Corporationの地方当局者によると、2018年にKarachiの複数の病院でCCHFにより16例が死亡し、その大多数がQuettaを含むパロチスタン州の異なるエリアの居住者であった。
25	デング熱	ProMED-mail 20181123.6160084	インドにおけるデング熱の症例数に関して報告された。パンジャブ州 Patialaでは、デング熱の症例数は2018年11月18日の午後時点で2221例に達した。同地域における2017年のデング熱患者数は2432例であった。New Delhiでは、2018年11月の第1週に新たに804例が報告された。同地域における2018年11月までの総症例数は7358例であった。
26	ニパウイルス感染	N Engl J Med. 380(2019)1804-1814	2001年4月から2014年11月の期間、バングラデシュにおけるニパウイルスの集団発生に関する調査において確認された感染リスク因子は、45歳以上の年齢及び呼吸器症状であった。感染のリスクは接触者への曝露時間が長くなるほど大きくなり、体液への曝露によっても大きくなった。
27	灰白髄炎	ProMED-mail 20181213.6208505	アフガニスタンのヘルマンド州Nawzad地区において1例の新規野生型ポリオ1型ウイルス(WPV1)症例が報告された。2018年11月6日に麻痺を発症したと報告されている。2018年におけるWPV1症例の総数は21例である。
28	中東呼吸器症候群	Emerg Microbes Infect. 8(2019)103-108	中東呼吸器症候群コロナウイルス(MERS-CoV)に感染したラクダと接触する家畜の血清及び鼻腔ぬぐい液の検査で、ウシ、ヒツジ、ヤギ、ロバからMERS-CoV抗体又はMERS-CoV RNAが検出された。
29	牛痘	Emerg Infect Dis. 25(2019)212-219	牛痘ウイルスの新たな株による非定型的症状が報告された。男性患者1例は先のとがった金属の柵によって胴体に表面的な損傷を受けた後、難治性病変を発現した。通常の皮膚の生検培養では真菌、細菌及びマイコバクテリアは検出されなかったが、PCRで特定のorthopox virusに対して陽性を示した。当該病変は最終的に9カ月後に治癒した。当該患者は1歳時に天然痘に対する予防接種を受けていた。
30	ウイルス感染	BMC Infect Dis. 19(2019)297	米国において、ウシ白血病ウイルス(BLV)のヒト血球中への存在の有無、BLV抗体の血球感染への関連について調査された。95人の血液標本を対象にPCRを行ったところ、バッフィーコート中の血球細胞でBLVが検出された。また、IgG、IgM、及びIgAについてELISA法により血漿中のBLVに対する抗体が検出された。抗体の存在とBLV DNAの存在との間に有意な相関はなかった。
31	ウイルス感染	N Engl J Med. 380(2019)2116-2125	2017年、中国におけるダニ媒介性疾患のサーベイランスにより、原因不明の熱性疾患により内モンゴル自治区の病院を受診した患者において未知のRNAウイルス感染例1例が同定された。臨床症状はダニ媒介性脳炎ウイルス(TBEV)感染症の臨床症状と類似していたが、TBEV RNA及び抗TBEV抗体は検出されなかった。当該患者から血液検体を採取し、ゲノム配列解析と電子顕微鏡法を用いて原因病原体の分離及び同定を試みたところ、当該患者は未知の分節RNAウイルスに感染していたことが明らかになった。当該ウイルスはフラビウイルス科jingmenvirus属に属し、Alongshanウイルスと命名された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
32	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2019/2/22	スペインのウシ1頭において非定型の牛海綿状脳症H型(H-BSE)が確認された。
33	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20190204.6294906	ポーランドのウシ1頭において非定型の牛海綿状脳症L型(L-BSE)が確認された。
34	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information. 2019/02/04	ポーランドのウシ1頭において非定型のL-BSEが確認された。
35	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20190222.6331460	スペインのウシ1頭において非定型のH-BSEが確認された。
36	ブドウ球菌感染	CDCホームページ. https://www.cdc.gov/media/releases/2019/p0305-deadly-staph-infections.html	米国CDCによると、2017年に米国において、119000例を超えるヒトが黄色ブドウ球菌による血流感染症になり、約2万例が死亡した。2012年から2017年にかけて、毎年医療環境外で発生したメチシリン感受性黄色ブドウ球菌感染は約4%の増加を示した。地域社会における黄色ブドウ球菌感染の増加は、オピオイドと関連している可能性がある。2018年の米国CDCの報告によると、2016年に当該疾患に罹患した全ての重篤症例のうち、9%が注射薬物使用者において発生しており、2011年の4%から増加した。
37	レンサ球菌感染	Microbiologyopen. 8(2019)e00623	ヒト気道細胞を用いた生体外モデル、ゼブラフィッシュを用いた生体内モデルによる感染性の研究で、ウシ乳腺炎の主因である <i>Streptococcus dysgalactiae subsp. Dysgalactiae</i> に人畜共通感染能力があることが示唆された。
38	サルモネラ症	Food Safety News. https://www.foodsafetynews.com/2018/12/denmark-probes-pork-link-in-salmonella-outbreak-strain-is-antibiotic-resistant/#	2018年10月中旬からデンマーク国立血清学研究所に報告されているサルモネラ症の感染症例(32症例及び19例の入院)についてデンマークの当局が調査中である。初期情報では、原因として生の豚肉が指摘された。
39	梅毒	J Clin Microbiol. 57:1(2019)1-9	日本では2011年から梅毒報告感染者数が増加し始め、特に若年女性患者数の増加が顕著である。また、大阪府の調査では、異性愛者間ではMSMとは異なる梅毒トレポネーマ株が流行していることが報告された。
40	梅毒	ProMED-mail 20190131.6287056	カナダのWinnipeg Regional Health Authority (WRHA) は、梅毒の症例数が増加していると警告している。WRHAによると、2018年のWinnipegにおける当該疾患の発生率は2017年の4倍になった。WRHAによると、患者の約3分の2が市内の繁華街又はPoint Douglas地域に居住しており、約半数が主にメタンフェタミン等の薬物を使用していると報告した。
41	梅毒	ProMED-mail 20190217.6321714	米国CDCの調査により、米国の住民間における最近の梅毒症例の急増は、メタンフェタミン及び注射薬物使用の結果であることが示唆された。同調査において、2013年から2017年の間に、メタンフェタミンを使用している異性愛者の男女における梅毒症例の発生率が2倍超になったことが明らかになった。
42	梅毒	ProMED-mail 20190307.6354666	カナダのマニトバ州において過去6カ月間(2018年~2019年)に、少なくとも10例の乳児が梅毒の治療を受けており、公衆衛生局はメタンフェタミンがアウトブレイクを悪化させる可能性があるとして述べている。
43	ヒトアナプラズマ症	Emerg Infect Dis. 24(2018)1548-1550	米国において輸血によるアナプラズマ症感染症例が報告された。
44	細菌感染	Vox Sang. 114(2019)182-184	日本において、初めて輸血を介した <i>Lactococcus garvieae</i> のヒト-ヒト感染例1例が確認された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
45	アスペルギルス感染	International Journal of Infectious Diseases. 81(2019)85-90	コロンビアにおいて、 <i>Aspergillus caelatus</i> による初めてのヒト気道定着例1例が確認された。
46	アメリカ・トリパノソーマ症	Transfusion. 59(2019)287-294	日本における献血者(18076名)について <i>Trypanosoma cruzi</i> (<i>T. cruzi</i>) 抗体保有率の調査が実施され、3名が <i>T. cruzi</i> 抗体陽性であり、うち1名は <i>T. cruzi</i> DNAも陽性であった。シヤーガス病の非流行国である日本においても輸血による <i>T. cruzi</i> 感染のリスクがあることが示唆された。
47	バベシア症	FDAホームページ. https://www.fda.gov/media/114847/download	米国食品医薬品局より、業界向けガイダンス「輸血によるバベシア病の伝播のリスクを低減するための勧告」が発出された。ドナースクリーニング、献血血液の検査方法、献血の延期、製品管理に関する推奨事項等が記載されている。なお、血漿分画製剤の原料に用いる血漿は対象外とされている。
48	トキソプラズマ症	Parasitol Int. 68(2019)79-86	日本において、4頭のリスザルにおけるトキソプラズマ症の発生が調査された。
49	野兔病	Emerg Infect Dis.25(2019)767-775	2017年7月、米国において同一のドナーから固形臓器移植を受けた患者3例(心臓1例及び腎臓2例)が発熱及び敗血症を発症し、うち腎移植患者1例が死亡した。生存している腎移植患者の血液培養から <i>Francisella</i> 属の桿菌が検出されたことから、野兔病が疑われた。ドナー家族に対する聞き取り調査から、ドナーと病畜との接触、節足動物による咬傷等の明確な曝露は確認できず、地域の水源等の管理記録にも異常は認められないため、感染経路は不明であった。保管されていたドナーの脾臓組織及び腎移植患者2例の血液から、 <i>Francisella tularensis subsp. Tularensis</i> (<i>F. tularensis subsp. Tularensis</i>) (クレードA2) が検出された。また、ドナー宅周辺で回収されたウサギ目の2匹の動物の死骸から、PCRにより <i>F. tularensis subsp. Tularensis</i> (クレードA2) が確認された。本報告により、固形臓器移植による野兔病菌のヒト-ヒト感染が確認された。
50	野兔病	PHEホームページ. https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/785223/Emerging_infections_summary_February_2019.pdf	2017年7月、米国において同一のドナーから固形臓器移植を受けた患者3例(心臓1例及び腎臓2例)が発熱及び敗血症を発症し、うち腎移植患者1例が死亡した。生存している腎移植患者の血液培養から <i>Francisella</i> 属の桿菌が検出されたことから、野兔病が疑われた。ドナー家族に対する聞き取り調査から、ドナーと病畜との接触、節足動物による咬傷等の明確な曝露は確認できず、地域の水源等の管理記録にも異常は認められないため、感染経路は不明であった。保管されていたドナーの脾臓組織及び腎移植患者2例の血液から、 <i>F. tularensis subsp. Tularensis</i> (クレードA2) が検出された。また、ドナー宅周辺で回収されたウサギ目の2匹の動物の死骸から、PCRにより <i>F. tularensis subsp. Tularensis</i> (クレードA2) が確認された。本報告により、固形臓器移植による野兔病菌のヒト-ヒト感染が確認された。